

8月13日(火)

良い知らせ

聖書朗読 マルコの福音書 1: 40~45

良い知らせを伝える者の足は、山々の上にあつて、なんと美しいことよ。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神が王となる」とシオンに言う者の足は。
イザヤ 52:7

あなたが最後に喜びに満ち溢れて、人に知らせずにはいられない良い知らせを受けたのはいつのことですか。例えば、家族に赤ちゃんが生まれた、第一希望の仕事に就けた時、初めて家を買った時とかでしょうか。ありふれた日常生活でも、良心的な価格でしっかり仕事を請け負ってくれる修理工を見つけたとか、ソファをお値打ちで買えたとか、友達にお気に入りのブレンダーを勧めたなどという嬉しい発見はあるものです。

マルコの福音書には、ツアラアトに冒された人がイエス様にお願いに来て癒して頂いたことが描かれています。彼はあまりの嬉しさにイエス様に『だれにも何も言わないようにしなさい。』と言われたにも関わらず、『出て行って、この出来事をふれ回』ったとあります。

今日の私たちにもその時の人々と同じようにイエス様からあらゆる恵みの喜びを頂く機会が与えられています。私たちがバプテスマを受けキリストを着て(編注:ガラテヤ 3:27)新しいいのちに歩むとき(編注:ローマ 6:4)、イエス様がツアラアトに冒された人を癒したように私たちを癒して下さいます。主の癒しを頂き、イエス様と共に歩むことで平安、希望、喜びを知ることができます。ですから、そのすばらしいあなたの経験を周りの方々と分かち合いましょう。

讚美歌 529 ああうれし、わが身も

祈り 親愛なる主よ、あなたの御子による救いの良い知らせに感謝します。
人生で受ける全ての試練と誘惑を通じて、イエス様という岩の上でしっかり立つことができますよう助けてください。イエス様のお名前によって。
アーメン。

ノースカロライナ州 サクサパハウ / ジョエル・セルビー

8月14日(水)

結果を委ねる信仰

聖書朗読 マルコの福音書 3:20~30

けれども、善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶとしたら、それは、神に喜ばれることです。
ペテロ I 2:20

イエス様の敵がイエス様について言った全ての残酷なことを思い出してください。言うまでもなく、イエス様は食いしんぼうの大酒飲みではなく、安息日を守らない罪人でもなく、彼を批判する者たちがでっち上げたような神を欺く冒涇者でもありませんでした。

おそらく最も悪質だったのは、イエス様がベルゼブルに取りつかれていて、悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出しているという中傷でしょう。イエス様はもしそれが本当なら、サタンが自らに敵対することだと冷静に説明されました。

イエス様は私たちが不当に非難された時の気持ちを知っておられます。厳しい主人を持つ奴隷のクリスチャンに向けてペテロは、『あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。…ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず』(ペテロ I 2:21, 23)と書きました。イエス様はどうやって、これらのひどい仕打ちに愛をもって対処できたのでしょうか。イエス様は『正しきばかれる方にお任せになりました。』(ペテロ I 2:23)イエス様は父なる神様が無念を晴らして下さることを真に信じました。父なる神様に任せたのです。

神様を信頼して結果をお委ねすることによって、イエス様はののしりに対してあのように対処できたのです。これは私たちも見習わなければなりません。もし、私たちが不当な扱いを受けたらならば、このことを覚えて実行していけるように祈ります。

讚美歌 II 140

祈り 父よ、人々が私たちに不親切な時、イエス様がとられた対応を私たちもとることができますように。イエス様がされたように、あなたを信頼できますように。主の御名によって。アーメン。

テキサス州 コマース / デビッド・ギブソン

8月15日(木)

私たちの内にある神の働き

聖書朗読 マルコの福音書 4:21~29

私はぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。 ヨハネ 15:5

イエス様は、あかりを^{ます}枘の下に置かないで、燭台の上に置きなさいと仰いました。ここでのあかりは、イエス様を知った自分自身のことですから、イエス様があかりを燭台に置くように注意されたのを私は理解できます。なぜかという、たとえイエス様を知っていても、自分に自信のない私は、明るい所に行くと、自分の恥や罪をさらけ出すような気がして暗い方に行ってしまいます。また、自分が神の作品であるとは思えないのです。

しかし、神様は私の思いとは異なり、私たちに輝くことを望んでおられます。自分自身を枘や寝台の下に隠すのではなく、明るい所に出て行くように仰っています。神様は、私たちが神様の愛とめぐみを受け入れ、神様の愛を周りの方々に分かち合うことを願っています。自分に焦点を置くのではなく、神様に変えられた自分を燭台の上において、神様差し出すことが大事です。

私たちが出来ることは限られています。種が芽を出して育つのが人手によらないように、私たちの能力で人が神のようになることは出来ません。私たちが神様により頼むことによって、神様は私たちを成長させてくださいます。

ですから、もし私たちが神様に変えられて、神様に近づく努力をすれば、変化します。神様にあって、私たちは少しずつ成長します。植物がゆっくり時間をかけて育ち、実を結ぶように、神様のご性質が私たちの中で育ちます。

私たちの心が神様の愛の光で輝き始めると、私たちにはもう何も隠すものがないことを知るでしょう。さあ、自分自身を燭台の上において輝かせましょう！

讃美歌 525 めぐみ深き 主のほか

祈り 親愛なる神様、あなたの贖いがなければ、私たちは恥しか知りません。主の慈しみが私たちの心の中で育ちますように。主の名により。アーメン。

ノースキャロライナ州 ヘンダーソンビル / イーサン・ブラウン

8月16日(金)

主よ、水先のしるべしたまえ

(救い主イエス様、私を導いて下さい)

聖書朗読 マルコの福音書 4:35~41

万軍の神、主。だれが、あなたのように力があられましょう。主よ。あなたの真実はあなたを取り囲んでいます。あなたは海の高まりを治めておられます。その波がさかまくとき、あなたはそれを静められます。 詩篇 89:8~9

私はクルーズ船の上甲板のダイニング・ルームで、朝食をとりながら朝の様子を眺めていました。ゆっくり進むクルーズ船を、“水先案内船”と書かれた小型のモーターボートがビュンと通り過ぎて行きました。大型船が入港する際、その湾の水先案内人が出動して、安全に大型船が着港できるように導くそうです。その水先案内人はだれよりも“自分の港”を知っている訳ですから納得できます。

神様は私たちの人生のあらゆる事柄を導いてくださいますが、私たちの人生の舵取りを神様に委ねることはそう簡単ではないかもしれません。私たちを安全な最終の港まで、永遠へと導いて下さる神様に、私たちの身を託すのは挑戦かもしれません。でも、しなければいけません。

定期的に「イエス様、救い主よ、わたしを導いてください」とお願いし、困難な時に“主よ水先のしるべしたまえ”と讃美歌を歌うことも良いでしょう。あるいは、ただ自分の弱さやニーズを認めて、「イエス様、助けてください!」と日頃から言うことも大切です。荒波にのまれそうな時に、水先案内人である主に助けを求めるのではなく、日々主に全てを委ねていきましょう!

讃美歌 292 はてしも知れぬ うき世の海の

祈り 人生の嵐が私をボロボロにしそうな時、神様、あなたが私の周りの全ての物の創造主であることを私に気づかせてください。日々私を舵取りし、くださる救い主、イエス・キリストの御手に身を置けますように。御名によってお祈りします。アーメン。



テキサス州 アマリロ / ダニー・マイズ

8月17日(土)

舟から降りよう!

聖書朗読 マルコの福音書 5:1~13

弱い人々には、弱い者になりました。弱い人々を獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。それは、何とかして、幾人かでも救うためです。

コリント I 9:22

今日の聖書箇所は、イエス様が水の上を歩いた話ではありません。この話の中でイエス様がされたことはもっと簡単なことです。湖の向こう岸、新しい場所に着いて、舟から降りたことなのです。舟から上がられるとすぐに、主の助けが必要な人や、悪霊に取り憑かれた人に出逢います。

イエス様の宣教で、実に多くの場面で“舟から降りる”ことをされているのを考えてみてください。イエス様は司令部に留まり、人々が自分のところに来るのを待っていたわけではありません。立派な建物やキャンパスで活動するのではなく、助けを必要としている人々の場所へ行き、舟から降りました。話を聞き、応え、助けました。ペテロは使徒の働き10:38で、イエス様が『巡り歩いて良いわざをなし』たと言っています。

舟に居座るのは簡単です。知り合いの仲間たちと一緒にいるのは楽ですし、何とも言えない居心地の悪い人々との交流を最小限に留めることができます。舟から降りるのは難しいです。しかし、それをイエス様がしてくださいました。

ですから、私たちも舟から降りましょう。そして、イエス様の愛で助けを必要としている方を助けましょう。ふさわしい時を用いて、イエス様の素晴らしさを宣べ伝えましょう。

讚美歌 447 勇めやはらから

祈り 主よ、私たちをイエス様のようにしてください。あなたの聖霊が平和と励ましの言葉を与えて下さると信じて、信仰をもって人々と関わる事ができますように。イエス様の御名によって。アーメン。

インディアナ州 ラファイエット / ジョシュ・ボイド

8月18日(日)

この母にしてこの娘あり

聖書朗読 マルコの福音書 6:15~29

ところが、ヘロデヤはヨハネを恨み、彼を殺したいと思いながら、果たせないでいた。 マルコ 6:19

親の悪い例を見習う子どもを見ると、実に心苦しくなります。今日の聖書箇所では、ヘロデヤはヘロデとの関係が好ましくないと訴えるバプテスマのヨハネを軽蔑し、彼に恨みを抱いていたとあります。ヘロデヤの娘は母親が非常に腹を立てていた様子をきっと見ていたのでしょう。ヘロデが娘に何でもほしい物を与えようと言うと、娘は母を喜ばせ面倒な揉め事を鎮めるために、バプテスマのヨハネの首を求めました。娘は母親の罪深く報復的な態度にすでに毒されていたのです。

今日の母親たちがそのような要求をするとは思いません。しかし、私たちの不平、恨み、不敬虚な選択をすることによる悪影響を考えてみてください。私たちの言葉や態度は、子どもや孫たちの心に深くしみ込みます。そして、私たちを喜ばせるために、また私たちと同じようになろうとして、彼らは間違った振る舞いをするかもしれません。

一方、テモテ II 1:5にある祖母と母の誠実な信仰がその子に敬虔な影響を与えた箇所は、私たちを勇気づけてくれます。そのような箇所を読むと私たちの心は清涼感で満たされます。私たちの人生もそのような人生でありたいですね。

讚美歌 324 主イエスは 救いを

祈り 愛する神様、私たちの恨みと不平をお赦してください。私たちが誠実に生きることができるように洞察力と知恵を与えてください。そして私たちが知る人全てに神聖な影響を与えられますように。あなたのようになれますように。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。



カリフォルニア州 サウザンドオークス / スーザン K・ギボニー